

## 【 宮城県多賀城市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な多賀城市方言の音声や文法を概観していきます。

### ㉑ 音 声

#### 【子音】

##### ▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは簡単に言えば、単語の頭以外の位置にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になり、濁って聞こえることです。専門的に言えば、母音に挟まれた無声子音 /k/ /t/ が有声子音 /g/ /d/ になることで、有声化と呼びます。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば「柿」は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ  
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもある程度保たれているようです。例えば、カ行音については、「ムガシ」（昔）、「ナグナッテ」（無くなって）、「オドゴ」（男）などの例が聞かれました。また、タ行音については、「アンダ」（あなた）、「ウジ」（家）、「オジャ」（お茶）、「イッテミデガ」（行ってみたいか）といった例が聞かれました。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

##### ▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外の位置にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルとなり、「上げる」と混同してしまいそうです。しかし、「上げる」のほうは「げ」が鼻濁音、すなわち鼻にかかった濁音（「ヶ」のように半濁点で表記する）となり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。このように、「げ」が鼻にかかる現象を鼻音化と言います。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「アカ°ンナイ」（上がらない）、「ホーケ°ン」（方言）、「ヨメコ°」（嫁さん）のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか判断が微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。その点で、今回の文字化作業は課題が残ったと言えます。

以上のガ行に加えて、同じようにダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）。

例) ダ行：肌 → ハンダ  
ザ行：風 → カンゼ  
バ行：首 → クンビ

今回の話者にも、シンドカッタ（ひどかった＝たいへんだった）、カンバネヤミ（かばね病み＝怠け者）といった例が見られました。

### ▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キヨも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞これは「口蓋化」と呼ばれる現象の一種です。この場合の口蓋化とは、キの発音をするときに、舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を指します。

例) 機械（きかい） → チカイ  
救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ  
今日（きょう） → チョー

同様に、この現象はギにも見られ、「ジ」のような発音が聞かれます。今回の会話集では、「ジンナカ°ス」（銀流し）の例がありました。

## 【母音】

### ▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ  
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

ただ、今回の会話集の話者たちには、この現象はあまりはっきりとは見られませんでした。

### ▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言います。宮城県ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」のように発音され、これらは区別がありません。いわゆるズーズー弁と呼ばれる所以です。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス  
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツズ

今回の会話集の話者たちからも、「スンペー」（心配）、「ハナス」（話）、「ギンナカ°ス」（銀流し）などの発音が聞かれました。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

## ¶ アクセント

多賀城市は、「曖昧アクセント」と呼ばれる地域に属する。

☞例えば「橋」と「箸」を声に出したときに、共通語のような「有型アクセント」で

はハとシの音の高低が決まっています（＝型が有る）、それによって単語の区別がつかますが、「無型アクセント」では高低が決まっていない（＝型が無い）ため、区別されません。多賀城市は一応「有型アクセント」の地域に属しますが、「無型アクセント」の地域である仙台市と接しており、単語の区別が曖昧になる現象が観察されます。

ただし、世代が下るにつれ共通語化が進み、若い世代ではアクセントによる単語の区別がはっきりしてきているようです。

## Ⅱ 文 法

### 【格助詞】

#### ▼「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主語を表す助詞や、「を」のような目的語を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることがよく見られます。特に、「を」にあたる助詞に顕著です。

例) 主語 : 俺 行く (俺が行く)  
目的語: 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「ジェニ ネーゲバ」(お金が無ければ)、「カラダ ワルイノガ」(体が悪いのか)、「ゴミ ダシテキタノッシャワ」(ゴミを出してきたんですよ)、「シャベル カシテケサインヤ」(シャベルを貸してくださいな)などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

#### ▼「サ」

共通語の「へ」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なる用法も見られますが、今回の話者の用例は、ほぼ「へ」に対応するものでした。

例) トーキョーサ イク° ト (東京へ行くと)  
ドゴサ イク° ノッシャ (どこへ行くんですか)  
ビョーインサ イッテクツカラッシャ (病院へ行って来るからさ)  
フロサ ハイッテ ヤスマイ (風呂へ入って休みなさい)

### 【副助詞】

#### ▼「バリ」

共通語の「ばかり」「だけ」に当たる副助詞に「バリ」がある。

例) アンダワ イッツモ ソンナコトバリ カダッテ (あなたはいつもそんなことばかり  
言って)  
チョットバリ シャベル カシテケサインヤ。(ちょっとだけシャベルを貸してくだ  
さいな)

### 【接続助詞】

#### ▼「ケンド」

共通語の「けれど」に当たる接続助詞(逆接既定条件)に「ケンド」がある。

例) アンダ オチャ キライダケンド、オチャワ ノマナゲネンダヨ (あなたはお茶が  
嫌いだけれど、お茶は飲まなきゃいけないんだよ)

#### ▼「ケ」

共通語の「けど」などに当たる接続助詞に「ケ」がある。

☞次の例文の「ケ」は「けど」と訳せるものです。しかし、「ケ」にはほかにも、「の  
に」「たら」「ところ」などさまざまな共通語訳があてられるように、必ずしも逆接に  
なるとは限りません。「この間、町に行ったっケ、友達に会った」(町に行ったら)の  
ような用法もあります。この「ケ」には、あることがらを思い出すという意味合いが  
あり、その思い出したことがらを前提にどうであるかが「ケ」の後ろで語られます。

例) コノアイダ ラジオデ ユッテタツケ、ギンザオ ナカ° スコドオ ギンナカ° ス  
ツツーンデヤ (この間、ラジオで言ってたけど、銀座を流すことをギンナガシって  
いうんだよ)

#### ▼「ケバ」

共通語の「ば」に当たる接続助詞(逆接仮定条件)に「ケバ」がある。

☞次の例のように、形容詞に付きます。「ナケレバ」の「ナ」の部分が「ネー(=ナイ)」  
に置き換えられ、「ネーケレバ」となったうえで「ネーケバ」に変化した形式と思われ  
ます。

例) ジェニ ネーゲバ ベンショーデキネベツチャヤー (お金が無ければ、弁償できないじゃないかよ)

### 【助動詞】

#### ▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう) <推量>  
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう) <意志>  
お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?) <確認>  
みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう) <勧誘>

今回の会話集では、「イク° ヒツヨーネーベチャヤー」(行く必要ないだろう)、「ベンショーデキネベツチャヤー」(弁償できないだろう)などのように「ベチャ」「ベツチャ」の形で相手に確認をとる用法が見られます。

#### ▼「ネキャネ」「ナケネ」「ナクチャネ」

共通語の「～なければならない」「～なくてはいけない」にあたる当為表現の形式に、「ネキャネ」「ナケネ」「ナクチャネ」がある。

例) ワタシモ タベネキャネンダ。(私も食べなきゃならないんだ)  
オチャワ ノマナゲネンダヨー。(お茶は飲まなきゃいけないんだよ)  
ハダラカナクチャネーモノ。(働かなくちゃならないもの)

### 【終助詞】

#### ▼「チャ」

共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などにあたる終助詞として「チャ」が用いられる。

☞相手が知っているはずだ、当然わかるはずだ、と思う事柄を示し、相手に確認させる機能があります。今回の会話集では、次のような例が聞かれます。

- 例) ゴザインッテ ユッテタッチャ (「ゴザイン」で言ってたよね)  
メンタマツツーノワ ホーク° ンデネーッチャ (目ん玉っていうのは方言ではない  
だろ)  
ショーガナイッチャ (しょうがないだろ)

☞「チャ」の代わりに「サ」ということもあります、男性より女性に多い言い方の  
ようです。

- 例) ソレコソ ブンカダサネー (それこそ文化だよね)  
ワルクチ ユワレテルヨーニ オモッテタサ (悪口を言われているように思ってい  
たさ)

#### ▼「シャ」「ノッシャ」

共通語の「さ」にあたる終助詞として「シャ」が用いられる。「のさ」にあたる「ノッシ  
ャ」もよく聞かれる。

☞共通語にはうまく訳せない程度の軽い敬意を含んでいることもあります。

- 例) ビョーインサ イッテクツカラッシャ (病院へ行ってくるからさ)  
ソんなニ マデニ スッコドネーガラッシャ (そんなに丁寧にすることないか  
らさ)  
ドゴサ イク° ノッシャ (どこへ行くのさ (行くんですか) )  
オヒルワ ナニ タベタノッシャ (お昼は何を食べたのさ (食べたんですか) )

#### ▼「ワ」

共通語の「な」「ね」「よ」「わ」などにあたる終助詞として「ワ」が用いられる。

☞共通語と異なり、男性も使用します。しかも、比較的自由に文末に付きます。例  
えば、「学校さ行ったかワ」「まだ居たのワ」「もう行って来たよワ」など、「か」  
「の」「よ」といった助詞の後ろにも付きます。「もう居ないベワ」のように「ベ」  
にも接続します。さらに、「早く行けワ」のように命令形式に付くこともあります。  
この「ワ」に共通するのは、話し手が、自分に自信があり、当然のことを言ってい  
ると感じている場合のようです。

- 例) オヒル タベタノスカワ (お昼は食べたんですかね)

チョットバリ ゴミ ダシテキタノッシャワ (ちよつとばかりゴミを出してきたんですよ)

ハヤグ ネサインワ (早く寝なさいな)

### ▼「ダイ」「ダイヤ」

共通語の「だよ」にあたる終助詞として「ダイ」「ダイヤ」が使用される。

☞「ダイ」「ダイヤ」には強く断定する気持ちが込められていると思われます。下の例では、この「ダイ」に上で紹介した「チャ」が接続した「ダイツチャ」が使用されています。もうひとつの例のように、ダイの発音が融合してデのようになり、「ダイヤ」が「デヤ」のように聞こえることもあります。

例) マナグツツーンダイツチャ (マナグっていうんだよ)

ギンザオ ナカ° スコドオ ギンナカ° スツツーンデヤ。(銀座を流すことをギンナガシっていうんだよ)

### ▼「オンネ」

共通語の「もんね」にあたる終助詞として「オンネ」が用いられる。

例) アンダワ ソーユケドモ、シャネンダオンネー (あなたはそう言うけども、しょうがないんだもんね)

### ▼「ゴダ」

感動を表す終助詞として「ゴダ」が用いられる。

例) アラー、ゴーブサタシテテ シバラグダゴダー (あら、ご無沙汰してて、久しぶりなこと)

カシェンゴダ、アンダ (働くこと、あなた)

### 【敬語】

### ▼「ス」「ガス」「イン」

敬意を表す形式として「ス」「ガス」「イン」などがある。

☞共通語との対応を考えると、大まかに言って、「ス」は「です」「ます」、「ガス」は「です」にあたります。「イン」は相手に丁寧に働きかける言い方で、柔らかい印象を与えます。末尾の「ン」が弱く、「イ」のように聞こえることもあります。「ス」は「ノ



スカ」の形でよく質問に使用されます。

- 例) アンダ ダイジョーブスカ (あなた、大丈夫ですか)  
ヒョージュンコ<sup>°</sup>ン ナンデナイスカ (標準語になるのではないですか)  
マダ ネネーノスカ (まだ寝ないんですか)  
ウナベン タベタノスカ (鰻弁当を食べたんですか)

イーガス (いいです)  
タダ キテミダンデガス (ただ来てみたんです)

オジャ ノマイン (お茶を飲みなさい)  
ウジサ アガライン (家へあがりなさい)  
フロサ ハイッテ ヤスマイ (風呂へ入って休みなさい)

#### ▼「テケサイン」

共通語の「てください」にあたる補助動詞として「テケサイン」が用いられる。

- 例) オクッテッテケサイン (送って行ってちょうだい)  
シャベル カシテケサインヤ (シャベルを貸してくださいな)

#### 【接尾辞】

##### ▼「～コ」

名詞のあとに「～コ」を付けて、そのものへの親近感を表す。

- 例) ホラ オチャッコ ノマイン (ほら、お茶を飲みなさい)

#### 【参考文献】

- 井上史雄ほか (1994) 『日本列島方言叢書 3 東北方言考② 岩手県・宮城県・福島県』ゆまに書房  
加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210  
加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院  
加藤正信・佐藤武義 (1986) 「多賀城市の方言」多賀城市史編纂委員会『多賀城市史 3 民俗・文学』多賀城市  
後藤彰三 (2001) 『胸ば張って仙台弁』宝文堂

- 小林隆編（2000）『宮城県仙台市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 佐藤亨（1982）「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 玉懸元（2001）「宮城県仙台市方言の終助詞「ッチャ」の用法」『国語学』175
- 東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』ひつじ書房